

農業農村整備事業の環境配慮 計画・実績(H18まで)

平成19年1月末現在の状況

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
1	H15	土地改良総合整備事業	昭和2期 (阿波市)	軽減/消失	・在来水生動植物の生息環境の保全のため、現況開水路を存置し用水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	軽減/消失	・地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させている。	・工事前と同様の環境が保全されている。
2	H15	土地改良総合整備事業	上喜来2期 (阿波市)	回避 代償	・カワヂシャの保全のため、農道の路線変更(回避)或いは移植(代償)を検討する。	/	・徳島県立博物館の小川主任学芸員に相談、検討したところ、「付近広範囲にカワヂシャが生育していたので、特に移植等は必要なし。」ということで、特別な対応はしていない。	/
				最小化	・水生動植物の生息環境の保全のため、水路側壁の工法の検討を行う。			
3	H15	中山間地域総合整備事業	相生中央 (那賀町)	最小化 軽減/消失	・計画路線付近に生育する希少植物(ユキモチソウ)に配慮する。	軽減/消失	・希少植物(ユキモチソウ)を痛めないように、ロープを張って注意して施工した。	・H19年開花時期(4月～6月)に確認予定。
				最小化	・取水堰の計画にあたりは、魚類(ヤマトヌエビ)が遡上できる構造を検討する。	最小化	・取水堰は、魚類(ヤマトヌエビ)が遡上できる構造(石張りのスロープ)にした。	・平成19年夏季に、生息状況の確認を行う予定。
				最小化	・農村環境・景観保全のため、適切な畦畔の管理あるいは石積みの再利用をおこなう。	最小化	・農村環境・景観保全のため、適切な畦畔の管理あるいは石積みの再利用をおこなった。	/
				回避 最小化	・水田内のよけ(山際の土水路)を残す等により、水田依存種(ドジョウ等)の保全を検討する。	最小化	・水田内のよけ(山際の土水路)を再設置し、水田依存種(ドジョウ等)の生息環境に配慮した。	・平成19年夏季に、生息状況の確認を行う予定。
4	H15	農免農道事業	池田2期 (池田町)	最小化	・道路を横断する谷川(横断暗渠)は、魚類(ナガレホトケドジョウ)が遡上できる構造を検討する。	最小化	・当初はボックスカルバートで計画していたが、魚類等の遡上に影響の少ない、橋梁工へ変更予定である。	未
				軽減/消失	・工事区域に生息するナガレホトケドジョウは、上流へ移動させる。	未	未施工	未
				最小化	・側溝の整備において、ヒキガエル等の徘徊性動物の移動経路を確保するため、落下しないあるいは這い上がれる構造を検討する。	最小化	・道路側溝については、通常の三面張とするのではなく、這い上がり可能なガッター構造とする。	未
				回避 代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)に配慮を検討する。	/	・希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)は、調査範囲を広げて生育調査をしたところ、付近に個体の生育を確認したため、専門家と相談の上特に移植等は行っていない。	/
5	H15	農免農道事業	美馬中野 2期 (美馬市)	回避 代償	・農道路線選定にあたっては、希少植物(ヤブサンザシ)の回避または移植(代償)を検討する。	/	・イノシシの罠を仕掛けるためとのけられ消失したため、配慮対策ができなくなった。	/

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
6	H15	ため池等整備事業	水晶池 (鳴門市)	最小化	・堤体下流側法面に、在来植物の植生を復元する。	最小化	・堤体下流側法面に、在来植物の植生を復元した。	・平成19年夏期にモニタリング調査を実施する予定。
				最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張等を実施し、植生空間を創る。	最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創った。	
				軽減/消失	・工事期間中の水生生物の生育環境の確保をおこなう。	軽減/消失	・工事期間中の水生生物の生育環境に配慮するため、浅瀬の水たまりを創設した。	
7	H15	ため池等整備事業	池谷池 (阿波市)	最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創る。	最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創った。	・平成18年8月にモニタリング調査を実施。 ・自然石法面の間から植生が見られ、水生生物の生育環境が創設されている。
8	H15	河川応急対策事業	長岸寺西 (松茂町)	最小化	水生植物の生育環境及び生育空間の確保を行う。	最小化	・コンクリート水路の側壁部及び底版部に植生ヤシマットを設置し、水生植物の生育空間確保と水質浄化を図った。	
				軽減/消失	・堤体法面部の植生に対する配慮対策として、盛土には現況の植生土壌を使用する。	軽減/消失	・堤体法面部の、盛土には現況の植生土壌を使用した。	
9	H15	地盤沈下対策事業	藍住2期 (藍住町)	代償	・工事区域に生育する、希少植物(コイヌガラシ)に、移植を検討する。	代償	・パイプラインの施工にあたり、希少植物(コイヌガラシ)を、約15株移植した。	・H17年度の夏期の干ばつで、枯れてしまった。 ・原因としては、移植先での水不足があった。今後の移植について注意する。
10	H16	経営体育成基盤整備事業	平島上 (那賀川町)	回避 最小化 軽減/消失 代償	・工事区域に生育する、希少植物(フジバカマ・ミズマツバ・スズメハコベ)に配慮する。	回避	・排水路工事区域に生育する、フジバカマに配慮し、排水路の計画位置を変更し、回避して施工した。	・平成20年にモニタリング調査を実施する予定。
				修正 軽減/消失 代償	・水生動植物(メダカ・ドジョウ)の生息環境に配慮する。	修正	・ポンプ場内に、遊水池を設け、トンボ等の水生動植物の生息空間を設置した。	
				最小化 軽減/消失	・両生類(トノサマガエル)の生態系に配慮する。	最小化	・水路側壁に水路から水田への移動可能なスロープを設置した。	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
11	H16	広域農道事業	徳島東部 3期 (徳島市他)	回避 代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(ギンラン・イズハハコ)に配慮を検討する。	代償 -	・計画路線の変更は困難なため、希少植物(ギンラン)の移植を行った。 ・希少植物(イズハハコ)は、調査範囲を広げて生育調査をしたところ、付近に多数の個体の生育を確認したため、移植等は行っていない。	・ギンランについて、移植先周辺で生育状況の調査を行ったが、冬季の調査となったこと、及び地形の変状があったことにより確認できなかった。 ・春に再調査を予定。
				最小化	・道路側溝に小動物(カエル、ヘビ等)の這い上がれる構造を検討する。	未	未施工	未
				回避 代償	・計画路線上に生息している、タシロランへの生育に配慮する。	未	未施工	未
				最小化	・道路横断暗渠(谷川)を、魚類(カワヨシノボリ等)が移動可能な構造を検討する。(円形コルゲートパイプ等)。	未	未施工	未
12	H16	農免農道事業	忌部4期 (吉野川市)	回避 代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(セトウチホトギス・ミヤコアオイ)に配慮し、回避又は移植を検討する。	回避	・農道計画路線を再検討し、希少植物(セトウチホトギス・ミヤコアオイ)の生育に配慮し、路線計画を変更し、回避した。	
				回避 代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(サケバゼリ)に配慮し、回避又は移植を検討する。	未	未施工	未
				最小化	・道路側溝は、地上徘徊性動物(ヒバカリ(ヘビの1種))が這い上がれる構造を検討する。	未	未施工	未
13	H16	国営附帯県営農地防災事業	六条 (上板町・板野町)	軽減/消失	・在来の水生動植物等の生息空間の保全のため、現況開水路を存置し用水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	未	未施工	未
				代償	・工事区域に生育する、希少植物(コイヌガラシ)の移植を検討する。	未	未施工	未
14	H16	ため池等整備事業	神明池 (阿波市)	最小化 軽減/消失	・水生生物(トウヨシノボリ、モクスガニ・トンボの幼虫等)の生息環境の保全のため、の配慮を検討する。	最小化	・工事中	未
				最小化 軽減/消失	・堤体部の植物(ナンテンハギ)保全のため、移植等を検討する。		・工事区域内のナンテンハギは、確認されなかった。又、調査区域を広げたところ工事区域外に植生が確認された。	
				代償	・ため池の落水に伴う、工事期間中の水生生物への生息環境に配慮を検討する。	代償	・工事中におけるモクスガニに配慮し、事前に移動した。	
15	H16	ため池等整備事業	檀池 (吉野川市)	最小化 軽減/消失	・水生生物(メダカ、エビ、トンボ等)保全のため、堤体護岸の工法を一部自然石張護岸にする等の配慮を検討する。	最小化	・工事中	未
				最小化 軽減/消失	・堤体部の植物(コカモメヅル)保全のため、配慮する。	軽減/消失	・工事に当たり、コカモメヅルを一時避難している。 ・工事完了後、現況生育付近に還元させる予定。	・工事後に、植生の状況を確認する予定。
				代償	・ため池の落水に伴う、工事期間中の水生生物への生息環境に配慮を検討する。	代償	・工事中における水性生物(メダカ、コイ)に配慮し、事前に移動した。	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
16	H16	中山間地域総合整備事業	牟岐 (牟岐町)	最小化	・取水堰の計画にあたりは、魚類(ヤマヌメイビ)が遡上できる構造を検討する。	最小化	・取水堰は、魚類(ヤマヌメイビ)が遡上できる構造(石張りのスロープ)にした。	・工事完了後、生息状況の確認を行う予定。
				最小化 軽減/消失	・希少種(ミズワラビ、スズメハコベ、ウスゲチョウジタデ)が入った表土を仮置き、ほ場整備後にその表土を戻した	軽減/消失	・ほ場整備において、希少種(ミズワラビ、スズメハコベ、ウスゲチョウジタデ)が入った、現況の表土を戻した	
				最小化	・カニ・カエル・ヘビ等の生息環境の保全を検討する。	最小化	・排水路に、カニ・カエル・ヘビ等の生息環境に配慮し、石積み及びフトン籠等による護岸を設置した。	
				最小化	・農業用水路に、カエル・ヘビ・イモリ等の徘徊生小動物の脱出用のスロープ等の設置を検討する。	最小化	・カエル・イモリ等の徘徊生小動物の脱出用のスロープ等の設置を行った。	
17	H16	中山間地域総合整備事業	池田南部 (池田町)	最小化	・道路側溝等について、徘徊性動物(アカガエル)に配慮し、這い上げれる構造を検討する。	未	未施工	未
18	H17	経営体育成基盤整備事業	今津南部 (那賀川町)	回避	・希少植物(アゼオトギリ)の群落のある土水路はそのまま残し、従来の水環境を維持する。	未	未施工	未
				代償	・希少植物(フジバカマ、コウホネ)に配慮し、移植を行う。	未	未施工	未
				代償	・希少植物(ミズオオバコ、サンショウモ、ホッソモ)に配慮し、移植を行う。	未	未施工	未
				最小化 修正 軽減/消失	・田んぼの水生生物(メダカ、ドジョウ等)に配慮し、排水路の側壁や底部に凸凹部区間を設け、生息場所の配慮を検討する。	未	未施工	未
				修正	・田んぼの水生生物(メダカ、ドジョウ等)に配慮し、水田と排水路を結ぶ魚道を設置する。	未	未施工	未
				最小化 軽減/消失	・水路側壁に水路から水田への移動可能なスロープ及び石積を設置し、田んぼで生息する小動物(トノサマガエル、両生類、は虫類)に配慮を行う。	未	未施工	未
19	H17	国営附帯県営農地防災事業	大津東部東 (鳴門市)	回避 代償	・パイプライン計画路線上に生育している、希少植物(ハマボウ)に配慮し、回避又は移植等を検討する。	未	未施工	未
20	H17	ため池等整備事業	寺谷池 (吉野川市)	最小化 軽減/消失	・水生生物(メダカ、タモロコ、イシガメ等)保全のため、堤体護岸の一部を自然石張護岸とする等の配慮を検討する。	最小化	・工事中	未
			最小化 軽減/消失	・ため池の落水に伴う、工事期間中の水生生物への生息環境に配慮を検討する。	軽減/消失	・工事中		

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
21	H17	農免農道事業	板野中部2期 (板野町)	軽減/消失 代償	・希少植物(コイヌガラシ)の生育環境に、配慮を検討する。	未	未施工	未
				修正 軽減/消失	・魚類(メダカ、ドジョウ等)に配慮し、生息環境の創設及び、工事期間中の濁水に留意する。	未	未施工	未
22	H17	中山間地域総合整備事業	脇中央 (美馬市)	最小化 軽減/消失	・希少植物(ソクシンラン、ウグイスカグラ、クチナシグサ)の配慮を検討する。	未	未施工	未
				最小化	・道路側溝等の構造物について、徘徊性動物(カエル、ヘビ)が這い上られる構造とする。	未	未施工	未
23	H17	中山間地域総合整備事業	三好 (三好町)	最小化	・取水堰の計画にあたっては、魚類が遡上できる構造とする。	未	未施工	未
				回避 代償	・排水路計画路線上に希少種(ヤマイバラ)が確認されたため、排水路の路線を検討する。	回避	・希少種(ヤマイバラ)の生息に配慮し、排水路の路線を一部変更し、回避した。	・排水路の横で、良好に生息している。
				回避 修正 軽減/消失	・ため池改修に際し、魚類(トウヨシノボリ)の保全を検討する。	未	未施工	未
24	H18	経営体育成基盤整備事業	古養水・東北 (阿波市)	最小化 修正	・調整水槽近傍にビオトープを創出し、希少水生動物(メダカ、ヒメマルタニシ、コオイムシ)の生息環境を確保する。	未	未施工	未
				最小化 軽減/消失	・希少植物(カワジシャ)の、生育環境に配慮するため既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	未	未施工	未
				軽減/消失	・希少植物(センダイスゲ、ココモメツル)は、一時避難及び生育土壌を工事後に戻すなどの配慮を行う。	未	未施工	未
25	H18	経営体育成基盤整備事業	御所 (阿波市)	最小化	・希少植物(カワジシャ)の、生育環境に配慮するため既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	未	未施工	未
				最小化 修正	・調整水槽近傍にビオトープを創出し、水生動物(ギンブナ、カワムツ、ドンコ、カワヨシノボリ)の生息環境を確保する。	未	未施工	未
				軽減/消失	・希少植物(ナンテンハギ、ヒメミソハギ、コギシギン)は、一時避難及び生育土壌を工事後に戻すなどの配慮を行う。	未	未施工	未

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
26	H18	国営附帯県営農地防災事業	大山 (上板町、板野町)	最小化 軽減/消失 代償	・希少植物(ヒメミソハギ)の配慮し、仮移植し工事後戻す等について検討する。	未	未施工	未
				軽減/消失	・水生動物の生息環境に配慮するため、既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	未	未施工	未
27	H18	ため池等整備事業	奥の池 (美馬市)	軽減/消失	・希少植物(ミソナオシ)については、工事前に種を採取し、工事後に付近に播く。	未	未施工	未
				代償	・希少生物(モノアラガイ)については保護し、工事後に上のため池に戻す。	未	未施工	未
				代償	・希少植物(ソクシンラン)については、詳細計画により影響があれば、移植を検討する。	未	未施工	未
				最小化	・希少植物(イトモ)については工事による個体への影響を少なくするため、冬期に工事を行う。	未	未施工	未
28	H18	農免農道事業	勝浦南部上 2期 (勝浦町)	軽減/消失	・特に配慮する希少種等はいないため、小動物や虫類等の移動経路の確保のため、側溝や弁、横断工を設置する場合、這い上がれる構造とする。	未	未施工	未
29	H18	河川応急対策事業	有天第2 (徳島市)	軽減/消失	・特に配慮を行う希少種等はいないため、周辺に生息する水生動植物に配慮し、工事中の濁水に留意する。	未	未施工	未
30	H18	中山間地域総合整備事業	那賀川西部 (阿南市)	軽減/消失	・特に配慮を行う希少種等はいないため、周辺に生息する水生動植物に配慮し、工事中の濁水に留意する。	未	未施工	未
31		排水対策特別事業	竹須賀 (徳島市)	最小化 修正 軽減/消失	・希少水生動物(モロコ、ヤリタナゴ、モクスガニ)の生息環境に配慮するため、水路構造の検討及び在来水生植物の生育区間を確保する。	事業 未採択【平成19年度以降の新規採択申請となった。】		

(2) 環境配慮の実績

環境配慮の実績については、一覧表のとおりですが、ここには添付ファイルの容量の関係で、一部のみを掲示します。

なお、他の内容については、県庁農山村整備課で閲覧できます。

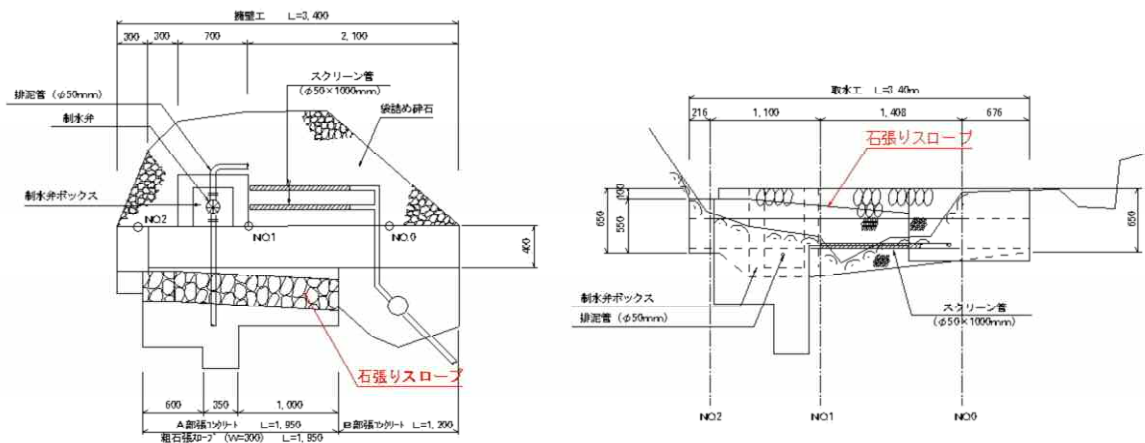
事業名	H15中山間総合整備事業	地区名	相生中央	市町村	那賀町
事務所名	南部総合県民局<美波>	課名	耕地担当	採択年度	H15

環境配慮の内容： 最小化

ヤマトヌマエビの対策として、取水堰の裏側に石張りのスロープを設置し、遡上できる構造にした。

営農飲雑用水施設整備 吉野工区

< 取水堰の構造（石張りのスロープ） >



配慮対策として、取水堰裏側に石張りスロープを設置し、エビ・カニ類の遡上、降下のための通路をもうけた。

< 取水堰の写真 >



配慮対象（ヤマトヌマエビ）の状況については、工事後2年経過の平成19年夏季に、堰上下流での生息状況の確認を行う予定。

事業名	H15ため池等整備事業	地区名	池谷池	市町村	阿波市
事務所名	川島農林事務所	課名	耕地課	採択年度	H15

環境配慮の内容： 最小化

堤体の改修において、在来植生や在来水生生物の生息環境をできるだけ元の状態にするよう配慮した。

< 堤体上流部法面へ現地発生表土を利用し在来植生を保全した >
堤体には、在来植生が回復している。
また、モノアラガイに配慮し、フトン籠工の施工を行った

工事完了時の状況写真

現在の在来植生が回復した状況写真。



< 堤体上流部法面の自然石ブロック張 >
ブロックの間から、水生植物が繁茂し、水生動物の生息環境となっている。

工事完了時の状況写真

現在の水生植物の繁茂した状況写真。



< 当初調査結果【平成14年8月】水生生物 >

平成14年度：魚類2目4科7種、エビ・カニ・貝類4目9科9種

・平成14年度に確認され、今回確認されなかったもの

【魚類】タイリクバラタナゴ、モツゴ、カムルチー

【エビ・カニ・貝類】モノアラガイ、モクズガニ

< モニタリング調査結果【平成18年9月】水生生物 >

平成18年度：魚類3目4科7種、エビ・カニ・貝類6目10科10種

・平成18年度今回調査で、新たに確認されたもの

【魚類】オオキンブナ、メダカ

【エビ・カニ・貝類】カワニナ、ヒメモノアラガイ、シジミ科の一種

事業名	H16農免農道整備事業	地区名	忌部 4 期	市町村	吉野川市
事務所名	川島農林事務所	課名	耕地課	採択年度	H 1 6

環境配慮の内容： 回避

計画路線に、希少種の植物セトウチホトトギス・ミヤコアオイの生育が確認されたため、路線の変更を行った。

< セトウチホトトギス：花の確認 >



< 確認場所 >



< 路線を変更して回避した。 >

< 希少種の保護のため、確認区域にロープを張り進入を抑止した。 >



事業名	H16中山間地域総合整備事業	地区名	牟岐	市町村	牟岐町
事務所名	南部総合県民局<美波>	課名	耕地担当	採択年度	H16

環境配慮の内容： 最小化
カニ・カエル・ヘビ等の生息環境を確保する。

ほ場整備 内妻工区

<排水路におけるフトンカゴの護岸>



カニの生息場所として、排水路の護岸の一部をフトンカゴを設置した。

5.8 m 区間に、3箇所 of 護岸を設けた。

<深目地及び空石積みの柵の設置>

空石積みの柵を設置し、カニの生息地を確保した。

また、カエル、ヘビ等が排水路に転落しても脱出ができるように、石積みは深目地とし、はい上がれるように配慮した。



5.8 m 区間に、3箇所 of 空石積み柵を設けた。

配慮対象（カニ・カエル・ヘビ等）の状況については、工事完了後に生息状況の確認を行う予定。

事業名	H16中山間地域総合整備事業	地区名	牟岐	市町村	牟岐町
事務所名	南部総合県民局<美波>	課名	耕地担当	採択年度	H16

環境配慮の内容： 最小化

農業用水路にカエル・イモリ等の徘徊生小動物の脱出スロープを設置した。

用水路 西又・橋

カエル、イモリ等が用水路に落ちた場合に、這い上がり脱出できるスロープを用水路に設置した。

<スロープの設置状況>



西又用水路

橋用水路



西又用水路は、128m区間に、2箇所スロープを設けた。

橋用水路は、287m区間に、7箇所スロープを設けた。